

<課題Ⅱ> 「立っているのに座っているかのような楽な姿勢がとれる器具」

- ・ 消化器内科では胃カメラのような短時間の検査だけでなく詳細な観察や腫瘍の切除など長時間に及ぶ場合もあり、長い場合は3-4時間以上、立ちっぱなしになることも少なくありません。
- ・ 特に身体的な疲労は判断や操作のミスにつながることから現在、内視鏡医への環境整備について関心が高まってきています（内視鏡医の高齢化も）。
- ・ 長時間の処置の際は（図1）のようにベッドに体重を預けることで足への負担を和らげたりしています。
- ・ 特に内視鏡処置では図2のようなフットスイッチと呼ばれるペダルを連続的に操作することもあるため片足立ちのような姿勢となる必要があります。
- ・ 募集するデザイン・アイデアは立ったままの姿勢で座っているような楽な姿勢となる器具となります。
- ・ 要望としては、
  - ①椅子のような方式、装具のような方式など、姿勢をとるための方式は問いません
  - ②足元にはフットスイッチがおけるようなスペースが必要であること
  - ③内視鏡医の体格に合わせて高さの調節が可能であること
 以上、3点の機能を備えていることが望ましい。
- ・ (参考)  
装具としての先行品としては、「Arche 1 is」があるが、体格に合わせた調整などには難があると考えられる。（[https://www.youtube.com/watch?v=A1kxx\\_f2Lgw](https://www.youtube.com/watch?v=A1kxx_f2Lgw)）

